NPT再検討会議参加報告
核兵器のない平和な未来を

今年4月、米国・ニューヨークの国連本部で「核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議」が開催されました。これに合わせ、核兵器廃絶を訴えるため全国の生協で生協代表団を結成、コープみらいからも1人が参加しました。





NPT再検討会議の開幕を前に、現地で平和行進。組合員から寄せられた平和へのメッセージを掲げ、核兵器廃絶を訴えました（左写真中央が古賀さん）



NPT再検討会議期間中、日本被団協による「原爆展」が国連本部ロビーで開催されました



世界各国の若者が参加した「平和首長会議ユースフォーラム」に、生協代表団からも若い職員が参加。核兵器のない平和な未来に向けて意見を交換しました

NPT再検討会議とは

核兵器不拡散条約（NPT）とは、核兵器の不拡散と核軍縮、原子力の平和利用を目的としたもので、核兵器を持つ国が参加する、唯一の国際的枠組みです。1970年に発効し、5年ごとに運用の見直しを図る「再検討会議」が開かれます。NPTに加盟する全191カ国が参加し、約4週間かけて話し合いました。

会議の期間中、被爆の実相を国際社会に訴えるため、全国27生協34名による生協代表団を結成。日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）などとともに、国際社会に向けて核兵器廃絶を訴えました。コープみらいからは、副理事長の古賀摩希子（こがまきこ）さんが参加。国連本部での「原爆展」の開催や、各国政府・NGOとの意見交換など、被爆者の活動をサポートし、核兵器廃絶を願う声を世界に届けました。

ニューヨークで核兵器廃絶をアピール

NPT再検討会議は国際情勢の悪化を受け、過去2回に続き今回も最終文書を採択できませんでした。古賀さんは「高齢の被爆者の皆さんが、疲れも見せず自らのつらい体験を語る様子を間近で見ていただけに、合意に至らなかったことは残念です。しかし多くの国が核兵器に頼らない平和のあり方を模索し続けたことは、大きな意義があります」と振り返ります。そして「私たちは戦争を知らない世代です。でも、想像はできます。朝、笑顔で送り出した我が子が、黒焦げになって横たわっていたら。それでも核兵器が必要なのか。想像することから、平和を願う取り組みを続けていきたいです」と話しました。

今回の経験を糧に、コープみらいはこれからも平和への願いを次世代につなぎます。

「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」へのご協力をお願いします

詳しくは本誌6ページをご覧ください。

過去に学び、未来へつなぐ
平和とよりよい生活のために